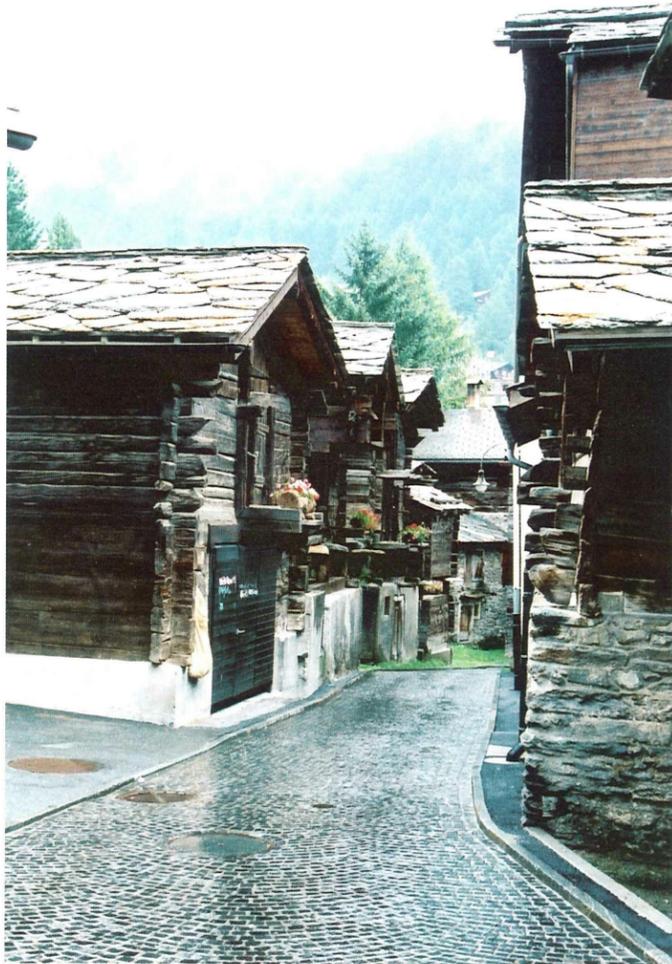
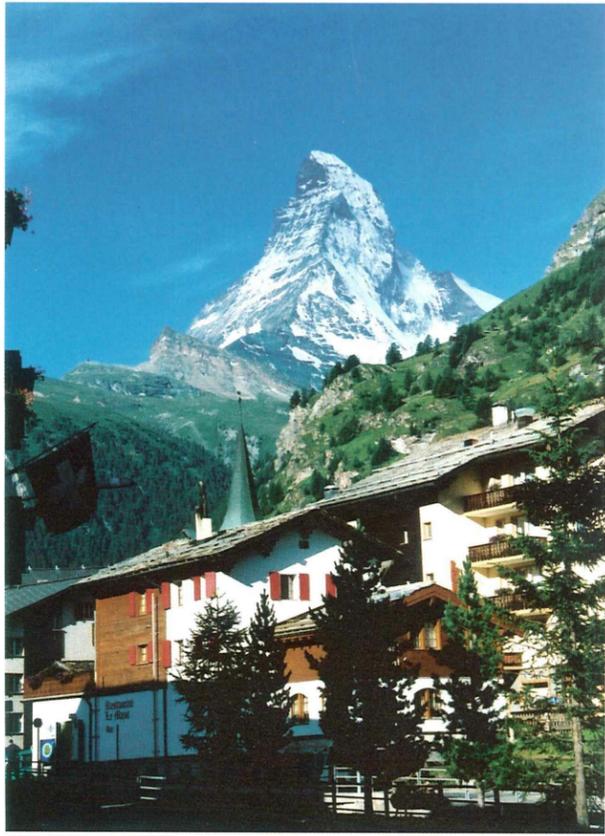


☆新たな疫病、戦争、リストラ、私欲の政治、異質犯罪の多発。今や私たちは四面楚歌とも思える厳しい状況に囲まれています。安穏な生活を望むことは、もはや贅沢なのでしょうか。自然界の突然変異のごとく、一挙に困難を解決する英知の出現が待たれます。☆『標本棚』の次号のテーマは、今号に引き続き「私のコレクション」です。趣味の世界に夢を広げることが出来るのは幸せなこと。みなさんはどんな趣味をお持ちですか、

APEX CLUB '03/6 第16号

アペックス産業株式会社

『APEX CLUB』
発行 2003年6月1日(通算第16号)
発行所 アペックス産業(株)「APEX CLUB」編集委員会
〒105-0014 東京都港区芝2-23-4
電話 03-3455-6474 FAX 03-3455-6558
メールアドレス http://www.apex-sangyo.co.jp
発行人 元木 貢 (編集委員)和田芳武、白坂昭子
山口力広
(事務局)白井良和
制作協力 株式会社オービット



ギャラリー アルプス二題

●プロフィール
東京生まれ。民間企業に在職中から写真に親しみ、写真展を開催したり、一九九八年には定年記念として写真集『LUX AETERNUM(永遠の光)』を出版するなど、写真をベースに幅広く活躍されている。著書に「欧州巡礼(ヨーロッパ気まま旅行)」、「旅行者のための役に立たないスイス雑学」、「アルプスの大自然と調和する人々」、「スイス個人旅行のすすめ(誰でもできる海外個人旅行)」など。

写真家 根谷崎武彦

●作者寸言● 学生時代の山仲間を中心としたグループで始めたヨーロッパアルプストレッキングは、昨夏で6年目を迎えた。美しく彩られたアルプスは写真の愛好家にとっては、絶好の題材を惜しげもなく提供してくれる。私は今までに何度かアルプスを主題にした写真の個展を開いたが、昨年は趣向を替えて、参加者に「アルプスグループ写真展」の開催を呼びかけ、12人の希望者の作品を集めて、横浜の「手234番館」でグループ展を開催した。写真は、そのときの私の作品展で、ツェルマットの街中から見たマッターホルンと、近代化されたツェルマットの町に今も残る古い穀物倉庫である。今年は、アルプスに別れを告げて、ノルウェーの山々に行く予定である。

日本ペストコントロール協会
「害虫スライド集」より
撮影/武藤敦彦氏

おじやま虫



ユスリカ

【プロフィール】ユスリカの幼虫は汚れた水溜り、河川、湖沼などで発生します。成虫の群れは車や洗濯物を汚したり、部屋の中に入ると、死骸が山積みになることもあり、工場では異物混入の原因となる不害虫です。人を刺すことはありませんが細かく砕けた死骸がアレルギーの原因になることもあります。
【種類】ユスリカは、ハエ目ユスリカ科に属し、日本では約七百種としていた文獻もありません。しかし、近年、多数の新種が発見され、実際はこれよりはるかに多いと思われる。身近に見られる種類としては、セス

ジユスリカ、アカムシユスリカ、ハイロユスリカなどがあります。
【駆除】湖などの広い場所では発生した場合は、水質浄化の方法がありません。水域が広い場所では、殺虫剤、昆虫成長制御剤の使用が効果的です。蒸し暑くなって部屋を開放しがちな時、ユスリカも多く発生し、電灯に向かって飛来します。身近な対処法としては、網戸を使用し、室内に入れないこと。入ってしまった場合は、死骸(電灯の笠の中や窓の内側下)を丁寧に除去することが大切です。店舗などでは、電撃殺虫機等を設置するのも有効です。



社員旅行でのI氏の酪酊迷い道
社員旅行で京都に行った時のこと。宴会後、十人ほどで夜の町に繰り出し、お決まりのカラオケへ。しばらくしてI氏が体調がすぐれないので先に宿に帰ると退出した。ところが、一行が宿に戻ってみるとI氏の姿がない。携帯は宿に置いてたまま。大騒ぎして捜していると、フルマソンを終えた選手のような疲れ切った表情でI氏が見つかった。開くと、酪酊気味だったI氏は、宿とは全く反対の方向をさまよっていたらしい。だが、宿が遠かったというだけで、道筋は憶えていなかった。最終日、新幹線の時間まで京都の町並を堪能し、お土産も買おうと、

みんなで祇園に向かった。その道すがらI氏が「この道は確か宿に戻る時に歩いた……」
I氏の失われた記憶は少しずつ蘇ってきた。もし、祇園に向かわなかったら、I氏の記憶は失われたままだったかも知れない。思い出したおかげで京都旅行はI氏にとっても、みんなにとっても、記憶に残る思い出深い旅となった。
飼育
かつて我が社に在籍していたM君。無類の動物好きで、少々気味の悪いペット(〇)を多数飼育していた。マダガスカル産などのゴキブリ3種、カエル、クモ、ネズミ、サソリ各1種、エリマキトカゲなどトカゲ類10種、ニシキヘビなどヘビ類10種、カラスなどトリ2種、中には飼育に特別な許可が必要なものもあった。M君は、飼育は楽しいけれど、手間と金がかかって大変だと言っていたが、当り前だ。
そのM君、結婚して九州に住むことになり退社したが、なんと、女房になる人も動物好きだというので、ペットも全部連れて行った。ペットに加えてヒトの雌も飼育することに。M君、はたして、手間に悲鳴を上げていたのか、それとも、ペットともども自分も雄として飼育される側になったのか、その後の消息は不明だ。
でも、面白い男



不必要な薬剤散布により健康を損ねることがないように、薬剤のみに頼らず総合的な対策を講ずることになります。室内への空間噴霧などの見直しも必要になります。
殺虫剤の多用は、安全上の問題ばかりでなく、ネズミや害虫の抵抗性の発達により、殺虫剤がきかなくなるといふ問題も起こします。
☆この改正は私達PCOにとって大きな試練です。事前調査ばかりでなく、防除作業の終了後に効果判定も必要になりますから、これまで以上に結果に対する責任も求められます。このことを真摯に受け止めて、これからの防除をおこなっていく決意です。(真)

むし籠

虫めがね

☆イラク戦争や新型肺炎(SARS)の影響を受け、依然、厳しい経済環境が続く今日この頃です。
☆そんな環境下、四月一日にビル衛生管理法が改正になりました。今回の改正の趣旨は、一言でいえば「環境に配慮して、安全に効果的にねずみ、昆虫等の防除を行うこと」にあります。
これまでは「年二回、定期的に薬剤散布を行う」方法が一般的でしたが、防除の前に調査が義務付けられ、生息のある区域、発生の恐れのある区域に対し必要な措置が求められています。
不必要な薬剤散布により健康を損ねることがないように、薬剤のみに頼らず総合的な対策を講ずることになります。室内への空間噴霧などの見直しも必要になります。